

群馬県内市町村の「稼ぐ力」とその「稼ぎ」

群馬経済研究所 研究部副部長 高橋 真澄

調査のポイント

「経済センサス」は国の基幹統計で、産業分野別の収入や費用を網羅的に把握する調査である。5年に1度実施され、地域別に企業・事業所の経済活動を明らかにしている。今回は、2021年の調査結果を用いて、群馬県内35市町村が生み出す付加価値やその産業構成から、地域の特徴や特色を整理し、明らかにする。

—要 約—

- 群馬県の全産業で生み出す純付加価値額（以下「年間の稼ぎ」）は4.3兆円で、全国15位であった。事業従事者一人当たりの純付加価値額（以下「一人当たりの稼ぐ力」）は、485万円で全国10位に位置し、隣接する栃木県（19位）、埼玉県（20位）、長野県（29位）、新潟県（33位）を上回った。
- 本県の「年間の稼ぎ」の構成割合は、「製造業」が34.4%を占め、全国平均（16.4%）を大きく上回っている。その一方で、全国平均で最も構成割合の高い「医療・福祉」（21.6%）は、そのほぼ半分の11.4%にとどまっている。
- 県内35市町村の「年間の稼ぎ」を比較すると、上位には商業の盛んな高崎市（9,587億円）、医療・金融の比重が高い前橋市（6,959億円）、製造業の集中する太田市（6,360億円）が並んだ。下位は、西毛の神流町（24億円）、南牧村（13億円）、上野村（10億円）となった。
- 市町村別の「一人当たりの稼ぐ力」をみると、明和町（1,007万円）、安中市（964万円）、昭和村（630万円）が上位になった。
- 各市町村の「年間の稼ぎ」やその構成比に注目すると、農林漁業の上野村、医療・福祉の川場村、小売業の吉岡町など個性豊かな地域が浮かび上がった。